

長崎の観光地といえば、グラーバー園、ハウステンボス、大浦天主堂、平和公園などを挙げる事ができる。15（平成27）年に「明治日本の産業革命遺産」、18（平成30）年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がそれぞれ世界遺産に登録され、盛り上がりを見せている。

### 三大花街の丸山

この長崎に江戸の吉原、京都の島原にらぶ日本三大花街があったのは、存してあろうか。丸山である。丸山は、現在の長崎市丸山町（まるやままち）と寄合町（よりあいまち）の総称で、長崎を代表する夜の歓楽街、思案橋（しあんばし）界隈に位置する。

思案橋は花街時代、遊郭へ行こうか戻ろうかと思案したので名付けられたもので、橋が架かっていた川は暗渠となり、現在は欄干の跡を残すのみとなっている。ここを過ぎ

ると丸山公園の近くに丸山町交番がある。石造りのレトロな交番で現在も県下随一の歓

## ～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景

第33回 長崎県長崎市



一般財団法人 日本不動産研究所

まいが残っている唯一の遊郭建築の建物に三島屋がある。1階玄関の破風（はぶき）下には屋号の三島屋が今なお残っており、2階の丸窓と格子窓が特徴的である。丸山は1642（寛永19）年、市内に散在していた遊女屋を官命により一箇所に集めたのが始まりである。江戸時代、海外貿易の発展とともに栄華を極め、最盛期の元禄時代（1688年）には1400人を超す遊女がいたといわれる。丸山遊女は吉原や島原と異なり、外国人と交流があった。つまり、唐人屋敷や出島阿蘭陀屋敷への出入りが許されており、

丸山公園を過ぎ丸山本通りの東側へ向かうと、長崎検番がある。長崎検番は芸妓衆の稽古や、お座敷への手配・統

当時の佇まいが残る唯一の遊郭建築の三島屋。芸妓衆の稽古やお座敷への手配・統括を行っていた長崎検番。



### 面影薄れゆく県下随一の歓楽街

## 有形文化財も解体の憂き目

楽街を取り締まっている。丸山公園を過ぎ寄合町通り

に南側へ向かうと、当時の佇

り、丸山遊女は日本行き、唐人行き、阿蘭陀行きとあって区別されていた。江戸時代後期には坂本龍馬等も訪れていたが、1957（昭和32）年売春防止法が施行され、遊郭としての丸山は約320年あまりで終焉した。

### 老舗料亭も取り壊し

料亭といえば最近、江戸時代から続く「富貴楼」が解体され、跡地に分譲マンション

括を行っており、花街文化は料亭文化が中心となって余興を楽しむ現在のスタイルが定着していく。2階の窓に掛けられた赤提灯には登録されていた芸妓の名前が書かれており、現在でも十数名の芸妓が長崎花柳界を支える存在として活躍している。

の建築が進められている。前身は1655年頃には営業していた料亭で、1889（明治22）年に初代首相の伊藤博文が屋号を命名し、07（平成19）年に国の有形文化財に登録されたが、後継者不足で休業。所有者側で売却先が見つからなかったことや、老朽化で第三者に被害を及ぼすおそれがあることから、長崎市景観重要建築物の指定解除がなされ、解体された。長崎は古くから異国との交流が盛んで歴史的・文化的な建物も多いが、時の経過に伴い老朽化が進んでいる。維持負担も重く、後継者不足が深刻であることも理解できるが、当時を物語るものとして、貴重な建物を残していく今後の取組みに期待したいものである。（長崎支所／不動産鑑定士・工藤健夫）



現在は欄干だけが残る思案橋。トロな丸山町交番。

石造りのレ

